

【令和7年度 松江清心養護学校 学校評価】

A(達成)4
B(おおむね達成)3
C(やや不十分)2
D(不十分)1

評価日: 令和8年2月25日

A(達成)
B(おおむね達成)
C(やや不十分)
D(不十分)

各学部・分掌目標	重点目標 [学校重点目標との関連]	評価指標 評価者	重点目標の達成度 [含他者評価]				自己評価	今年度の自己反省(総括・課題) 各学部・分掌の重点目標は達成できたか	改善点 来年度に向け改善すべき点	具体的な改善策 具体的にどのような取り組みや工夫を行うか	評価委員の評価	
			A	B	C	D						
<p>○自分から挑戦しようとする児童の育成 ・身の回りのものや身近な人などに興味・関心をもつ力を育て、広げる。 ・自分の気持ちや考えを自分なりの方法で伝える力を育てる。 ・身近な人と共に活動できる力を育てる。</p>	<p>・個性(長所、好きなこと、得意なこと等)を伸ばすことができるような授業づくりと、多様な集団での授業実践の推進。 【(1)ー①】</p>	<p>学部 教員</p>	<p>3</p>	<p>7</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>A</p>	<p>【総括】 ・各学級で児童一人一人の実態に合わせた授業にじっくり取り組めた。学級合同の取組も実施できた。 【良かった点】 ・新しく経験したり、素材や活動、人とのかわりに興味をもったりすることが増え、児童の経験が広がった。 【課題】 ・感染症対策以前のような合同学習や親子活動などの取組の実施、脱マスク着用、情報発信の工夫</p>	<p>・合同学習や親子活動の推進 ・情報発信方法の整理 ・ノーマスクによるコミュニケーションの再開</p>	<p>・年度末から年度当初にかけて、各学級で相談し、合同で取り組むとよい学習活動を計画し、実施する。 ・12月、2月の参観日のどちらかに、各学級で親子活動(調理活動の実施も含めて)を実施。 ・Instagramの開始に伴い、学校HPブログへの投稿を学部行事のみ又は取りやめの検討を行う。 ・(学校とセンターとの協議になるが)通常時のノーマスク対応の検討を行う。</p>	<p>●保護者評価から見ても、達成できていると思う。小学部の経験が中学校高校そしてその後の生活へとつながっていくと思うので、たくさんのご経験をさせて好きなものや得意なことを増やしたり広げていけばよいと思う。 ●マスクを廃したコミュニケーションの取り組みなど、これまでの当たり前や衛生や感染の恐れなどを考慮する反面、小学部の児童の他者との関わりを大切にしている面において、とても大切な取り組みだと思ふ。色々なリスクと本来の教育や育みを考慮してバランスを考えた取り組みだと思ふ。コミュニケーション以外にもバランスを考えられるシーンや分野があるかもしれない。 ●学習発表会を見て、学習活動の積み重ねの成果を感じた。脚本や演出に、先生方の工夫も感じた。</p>	A
<p>○自分のよさや可能性に気づき、たくましく生きようとする生徒の育成 ・基礎的な学力の定着を図り、日常生活に活かす力を育てる。 ・自分のやりたいことや目標に向かって挑戦できるたくましい心と身体を育てる。 ・自ら学びに向かい、さまざまな人と自分からかかわる力を育てる。</p>	<p>・生徒の個性を大切に、生徒同士が互いを認め合える授業づくりや学習場面を設定するとともに、安全に学べる学習環境づくりを行う。 【(1)ー①③、(2)ー①、(3)ー①②】</p>	<p>学部 教員</p>	<p>3</p>	<p>6</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>A</p>	<p>【総括】 ・昨年度の評価・課題反省を踏まえて、重点目標の達成を目指した取り組みをすすめることができたと思ふ。 【良かった点】 ・今年度も自立活動推進部と連携しながら、生徒一人一人の自立活動目標について明らかにし、指導を進めることができたと思ふ。 ・年2回の緊急体制訓練を実施し、実態に応じた緊急時の体制を確認することができた。 【課題】 ・類型によっては、生徒数の少なさから十分な学習集団の設定が難しく、来年度に向け、必要に応じて学部をこえた集団づくり等の工夫や検討が必要と思ふ。</p>	<p>・今年度中に、実態や課題に基づいて集団での学習が必要な教科や学習内容を明確にし、可能な範囲で来年度の適切な学習集団の検討をすすめる。</p>	<p>・教育課程検討委員会などの機会を通して、情報を共有し、他学部との連携を依頼しながら、具体的な学習集団や合同での学習場面を検討していく。</p>	<p>●保護者評価から見ても、達成できていると思う。課題にも書いてあるが、学部の人数が少ないことで難しい場面もあると思うので、内容によって学部を超えた活動ができるとうと思ふ。 ●学習や日々の生活での他者との関わりの中で自分のできることに気づき、またそれについて周りがアドバイスをしたり一人一人の個性として学校全体で記録し、その活躍の場を作ることが大切かと思ふ。その得意なこと長所を理解し高等部、社会に出ていく上で自信につながると思ふ。引き続きこの目標で続けてほしい。</p>	A
<p>○積極的に社会に関わり豊かに生きようとする生徒の育成 ・自立に必要な学力や心身の健康に気をつけて生活する力を育てる。 ・社会性を身に付け、積極的に人とかかわる力を育てる。 ・身につけた学力を現在及び卒業後の生活に活用する力を育てる。</p>	<p>・卒業後の生活を捉え、人とかかわり、自己理解をすすめる学習機会の設定と支援の充実 【(1)ー①、②、(2)ー①】</p>	<p>学部 教員</p>	<p>3</p>	<p>7</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>A</p>	<p>【総括】 進路や地域担当とも連携し、校外に出かけたり外部講師を招いたりして地域の人とかかわりながら、卒業後の生活に向けて生徒自身が自分の良さや課題を自覚できる学習を設定・展開することができた。 【良かった点】 ICT機器を活用して、リモート授業での交流も含め、自分の気持ちを発信することでお互いを理解したり、余暇活動を広げたりすることにつながった。また、生徒が身体の動きや視線で気持ちや意欲を伝えようとしていたり、少しずつ自分の言葉で支援依頼をしたりするなど、発信力の向上が見られた。 【課題】 卒業後の生活を想定し、出かける交通手段として路線バスを活用したいが、車椅子は1台しか乗れない等の制約があって、学習機会の設定が難しい面がある。</p>	<p>・卒業後の生活を想定した学習の拡充。</p>	<p>・利用が想定される生徒を中心に、バス等の公共交通機関の利用を組み込んだ年間計画を立て、3年間で計画的に学習を積み上げていけるように工夫する。</p>	<p>●目標に対することを達成できていると思う。保護者や児童生徒の評価で低い所が何点かあるのが少し気になる所。進路という言葉が重くのしかかる3年間なので保護者生徒の想いの通りこぼしがないように、情報提供などお願いしたい。 ●社会に出ていく出口、職場体験を通じた訓練や、学校や他者との関わりで得たことをできるだけ先生の助けを借りずに自ら進んでアピールしていくことが、生徒さん一人一人がしっかりと行っていると思ふ。 ●実施中かもしれないが、卒業後の支援体制(就労支援、生活支援)について、本人及び保護者の意向を確認しながら、コーディネートするようなことができれば良いのではないかと思ふ。</p>	A
<p>○校内各部署、関係機関、保護者、地域と連携を図り、円滑に学校の運営を行う。 ○安心安全な学校づくりのための取組を企画・調整・実施する。</p>	<p>・校内の関係部署と連携を図りながらR8年度の創立60周年記念事業を円滑に進められるように企画・調整を行う。 【(2)ー②⑤】 ・教職員一人ひとりの危機対応能力の強化を意識し、様々な災害を想定した避難訓練(火災、地震)、原子力災害避難シミュレーション訓練を計画、実施する。 【(3)ー③】</p>	<p>全員</p>	<p>3</p>	<p>6</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>A</p>	<p>【総括】 ・創立60周年記念事業については、過年度や他校の事業を参考に企画し、実行委員会を立ち上げてR8年度に向けての準備を進めていくことができた。今後、より細かく関係部署と連携を図り進めていきたい。 ・避難訓練については、事前にマニュアルや避難経路図などを全体に提示し、確認してもらっておくことで実際にはほぼ全員が避難について意識を取り組むことができた。 【良かった点】 ・原子力災害に関する研修では、座学を行うことで学校がどのような位置にあり、また、どのような避難の仕方になるのかを学ぶ良い機会とすることができた。 【課題】 ・今年度に関しては、創立60周年記念事業について全体での検討会を行っていないので、全体への周知が不十分な点があった。 ・避難訓練が一つの学期に偏ってしまった。</p>	<p>・避難訓練の実施時期</p>	<p>・各学期に1回の避難訓練を適切に実施する ・1学期 地震に関する避難訓練 ・夏休み 原子力災害に関する研修 ・2学期 火災に関する避難訓練 ・3学期 原子力災害に関する避難訓練</p>	<p>●年明けの地震は冬休み中だったので良かったが、学校生活時に起きたとき、先生方も生徒も混乱しないよう訓練の積み重ねの必要性を感じた。保護者への迅速な連絡も必要になってくるので、年一回でも連絡訓練など保護者を巻き込んで実施してみようか。 ●60周年の記念事業を行うにあたり、学校全体で取り組むこと、またこれまで地域連携で培ったつながりを活かして外部にお願いをしたいこと、やって欲しいことがあれば教えてほしい。</p>	A
<p>○12年間の学びの積み重ねを大切に、一人一人の実態に応じた教育課程の編成を推進する。</p>	<p>・教育課程編成のための手続きや文書作成及び校務支援システムの運用が計画的に取り組めるよう推進する。 【(1)ー①②③】</p>	<p>全員</p>	<p>3</p>	<p>5</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>B</p>	<p>【総括】 年間を通して教育課程編成に向けたスケジュールや取組の見直し等に努めた。校務支援システムを使った文書作成マニュアルを適宜、修正確認しながら周知した。 【良かった点】 教育課程検討シートBタイプの記入例や協議のポイントを示した。教育課程説明会の在り方を、全体や学部の状況に応じて変更した。教務関係掲示板を活用しながら情報提供を行った。 【課題】 ・教育課程編成において学部の礎的な役割として、教育課程編成に関する目的と役割を明確にし進められるように努めること。 ・校務支援システム等に関する整理。</p>	<p>・教育課程編成は、在校生、新入生ともに各学部で作成することが根幹であることを十分に理解しつつ、編成が定まらなく進められるように、計画を立てる。その都度、計画の趣旨と意義を明確にし、必要な会を設ける。 ・校務支援システムに関するマニュアルの適宜、修正と周知をする。</p>	<p>・教育課程編成相談グループの充実を図る。 ・次期学習指導要領に関する情報集および情報提供を適宜行う。 ・次期校務支援システムに関する情報集とマニュアルの見直し</p>	<p>●</p>	A

生徒指導部	<p>○児童生徒一人一人の能力や適性が発揮され、お互いを認め合える心豊かな社会生活につながる取組を推進する。</p>	<p>・地域と連携・協働した教育活動等を推進し、校外への発信を充実させる。 【(2)-①②③】</p>	<p>・ポッチャを通して学校外の人と関わる機会をもち、将来の余暇活動につながる取り組みができたか。 ・地域の方と障がい者スポーツに触れ、互いに「また交流したい」「またやってみよう」と思える機会となったか。 ・HPやちらし、地域連携だよりを活用し、校外への情報発信ができたか。</p> <p>全員</p>	3.6	43	28	0	0	A	<p>【総括】 ・ポッチャ部では、皆生養護学校との練習試合、県障がい者スポーツ大会、生馬地区ポッチャ交流会などの各種大会や練習会に参加し、学校外の人と関わり、将来の余暇活動につながる取り組みができた。 ・各学部においても、島根大学学生とポッチャを通して交流したり、公民館主催ポッチャ交流会に参加するなど、ポッチャを通して学校外の人と関わる経験ができた。 担当者を決めてチラシやHPでの情報発信ができた。</p> <p>【良かった点】 ・バラスポーツ体験会では地域のバラスポーツ選手と一緒に障がい者スポーツに触れ合うことができ、ポッチャ以外のバラスポーツに興味を持った生徒がいたこと。 ・いくまっこまつりでは、ポッチャ体験コーナーを設け、地域の方がポッチャに触れ合う機会を作れたこと。</p> <p>【課題】 ・ポッチャ以外のバラスポーツに触れる機会が限られていたこと。</p>	<p>・ポッチャやバラスポーツを児童生徒も教職員も体験する機会を増やしていくこと ・発信したい情報をリストアップし、発信方法を検討する。</p>	<p>・執行部が中心となり、全校集会や昼休みを利用してバラスポーツをみんなで楽しむ活動を企画する。 ・長期休業期間を利用し、教職員がポッチャやバラスポーツを体験・交流する機会を設ける。 ・発信したい情報のリストアップ、発信方法の検討、担当者の決定</p>	<p>●将来の余暇活動にもつながると思うので、ポッチャなどいろいろなバラスポーツに触れる機会を今後も作って欲しい。</p> <p>●ポッチャ交流会の開催は、地域や他団体と顔が見える関係づくりに役立っていると感じた。</p> <p>●ポッチャ交流会をとおして、生馬地区の様々な人と関わる機会となり、有意義な活動だった。</p> <p>●公民館主催世代間交流会では、地域方との交流を深めるとともに、学校や児童生徒理解につながる機会となった。</p>	A
進路支援部	<p>○児童生徒が自己の進路を主体的に選択できるよう進路支援を行う</p>	<p>・地域の事業所や関係機関と連携して児童生徒、保護者、教職員のニーズに沿った進路支援や情報提供を行う。 【(2)-①】</p>	<p>・地域の事業所や関係機関と連携して教職員対象の研修会が実施できたか。 ・地域の事業所や関係機関と連携して保護者へ進路に関する情報提供の機会を設定できたか。</p> <p>全員</p>	3.6	40	31	0	0	B	<p>【総括】 関係機関と連携して教職員対象の事業所見学を計画し実施することができた。関係機関と連携して事業所説明会を開催し、保護者へ情報提供した。</p> <p>【良かった点】 ・教員を対象とした事業所見学を実施できた。 ・小学部の保護者を対象とした進路に関する研修の機会を設定できた。</p> <p>【課題】 ・見学先について、他の事業所の見学希望もあったため今後検討していきたい。 ・保護者より事業所について、どういった事業所があるのかの問い合わせがあったため、事業所説明会の参加を促していく必要がある。</p>	<p>・事業所説明会の開催について、保護者への情報提供の仕方を工夫する。</p>	<p>・保護者対応や教員の研修として事業所説明会へ教員が参加しやすいように開催日の日程調整をする。 ・担任と協力して、懇談等で保護者へ事業所説明会の開催について情報提供していく。</p>	<p>●小学部の保護者を対象とした研修は評価できる。</p> <p>●学部ごとの進路研修会だけでなく、全体の保護者を対象とした研修会を参観日などを利用して見るのもいいと思う。その時にOBやPOB保護者相談支援員の方や事業所の方などに来てもらって話を聞くのもいいと思う。保護者のニーズがあるかわからないが、実際に利用しているOBや保護者の空の話を聞くことで将来の生活をイメージしやすくなると思う。</p> <p>●保護者の評価において、「お子さまの将来の生活や就労についての情報や研修の機会が提供されていますか。」の項目のみ平均点が2点台となっており、保護者から進路などについての情報提供などが期待されている。この部分については、保護者の意見も伺いながら、より良い方策を検討していただきたい。</p> <p>●実施中かもしませんが、卒後の支援体制（就労支援、生活支援）について、本人及び保護者の意向を確認しながら、コーディネートするようなことができれば良い。</p> <p>●事業所説明会の詳細がわからないが、当日参加できない方のために、説明会の様子を録画しておき、後日、上映会を設けてはどうか。上映会には教職員が同席する必要はなく、会議室かどこかの部屋でただ映像を流しておき、不明な点があれば各自で直接当該事業所に尋ねてもらえばよい。説明会への参加希望者全員が参加できる日を調整することはできないが、個別に説明会を開催し、進路に関する希望を伺うことはできる。</p>	A
研修推進部	<p>○島根県肢体不自由教育研究協議会の運営が円滑に進められるように企画・調整を行う。</p> <p>○校内研究や研修会を通して教員の専門性及び授業力向上を図る。</p>	<p>・校外の関係部署と連携を図りながら大会運営を行う。 【(1)-①②】</p> <p>・教員の専門性及び授業力向上のために計画的に校内研究、情報発信を行う。 【(1)-③】</p>	<p>・業務分担を明確にし、準備・運営を効率的に行うことができたか。</p> <p>・外部講師等による指導助言を活かし、各学級やグループ研でテーマに基づく取り組みができたか。</p> <p>全員</p>	3.5	38	32	1	0	B	<p>【総括】 ・県肢研については、全教職員の協力を得て大会を運営することができた。 ・校内研については、濱崎先生や外部講師による研究テーマに基づく講演や助言、授業実践を通してウェルビーイングについて「知る・考える」ことができた。</p> <p>【良かった点】 ・久しぶりの参集型で行ったが、各部署の先生方にも協力をしていただき、参加者からも好評を得る大会となった。 ・各学級抽出児童生徒のウェルビーイングについての話し合いや外部講師等の助言等を踏まえた授業実践を行うことができた。</p> <p>【課題】 ・当日の動きや分科会の持ち方について。 ・学部研の持ち方について部内での検討、全体周知が不十分だった。</p>	<p>・R8年度県肢研に向けて、早めに江津清和と情報共有・連携をしていく。</p> <p>・研究計画や取り組み内容、研修の焦点を部内でまとめ全体に周知しながら進めていく。</p>	<p>・江津清和養護学校からの情報を管理職、分掌内で共有し早めに準備を進めていく。</p> <p>・校内研担当者で全体を見通した具体的な計画を立案し、部内で検討し、年度当初のところで全体周知を図る。また、早めに学級代表とも連携、確認をとりながら進めていく。研究テーマに沿った外部講師による研修会を企画し、授業実践に活かせるようにする。</p>	<p>●「各学級抽出児童生徒のウェルビーイングについての話し合い」は、意義がある取組と考える。</p>	A
自立活動推進部	<p>○自立活動に関する教員の専門性・授業力向上のための取り組みに努める。</p>	<p>・自立活動の専門性の向上のための校内支援や校内研修会等を計画・実施する。 【(1)-③】</p>	<p>・全児童生徒の授業の巡回訪問と事後相談会が実施できたか。 ・授業実践に生かせる校内研修（ミニ自立、自立活動研修会）が実施できたか。</p> <p>全員</p>	3.7	49	22	0	0	A	<p>【総括】 ・全児童生徒の支援（巡回訪問、事後相談会、自活シート検討会等）が実施できた。また自立活動部員全員で協力して研修会が実施できた。</p> <p>【良かった点】 ・自活シートの活用機会（自活シート相談会のみならず事後相談会での活用）が多くなった。校内研修会の実施後アンケートでは「授業に生かせる内容であった」との評価が高かった。</p> <p>【課題】 ・今後も校内の専門性向上の支援のために自立活動推進部員の専門性の維持向上に努める必要がある。</p>	<p>・校内の自立活動の専門性向上の支援のため自立活動推進部員の専門性の維持向上に向けた取り組みの継続。</p>	<p>・今後も自立活動担当者ミーティング等を活用し、児童生徒の事例の共有や事例検討等を行いながら、部員の専門性の向上に努める。</p>	<p>●自立活動推進部員の専門性向上だけでなく、全ての教員の自立活動の専門性向上を期待している。</p>	A

保健部	<p>◎一人一人の児童生徒の心身の健康を支え、安心安全に学べる学校づくりを推進する。</p>	<p>・児童生徒の健康と安全を守る保健体制や環境の整備、充実を図る。 【(3)-①②③】</p>	<p>・安心安全に給食を食べることができるように関係各所と情報を共有しながら給食業務に取り組めたか。 ・各学部と連携して各学部のニーズに沿った緊急体制訓練を実施することができたか。</p>	<p>3.7</p>	<p>47 24 0 0</p>	<p>A</p>	<p>【総括】 ・関係各所と連絡を密にして給食業務に取り組むことができた。 ・各学部の意見を反映した形で緊急体制訓練を実施できた。</p> <p>【良かった点】 ・盲学校や給食に関わる業者、校内のワークセンターや学校アシスタントとの連絡や情報共有がスムーズだった。 ・学部ごとに給食のサイズを統一したことで、発注等にあまりミスがなかった。 ・緊急体制訓練について、各学部、各学級のニーズを理解できた。</p> <p>【課題】 ・現場実習時等の欠食連絡 ・訓練の目的の曖昧さ</p>	<p>・欠食連絡の徹底 ・訓練の目的の明確化</p>	<p>・毎週月曜日に次々週の欠食があるかどうか全校にチャット等で呼びかける。 ・年度当初の保健全体研修、学部ごとの訓練の直前に目的について説明する。 ・必要な学級には養護教諭が助言をする。</p>	<p>●保護者評価から感染症対策へ不満を持っている方もいるようだ。隣に東部センターがあることなど感染対策が他所より厳しいことはわかるが、少しずつ緩和できたらいいかと思う（特に家族でコロナが出たときの出停期間など）。</p>	<p>A</p>
教育相談部	<p>◎県東部の肢体不自由教育の中核的役割を果たし、地域の肢体不自由教育の充実を推進する。</p>	<p>・地域の肢体不自由教育の充実を推進する。 【(1)-①③、(2)-①②】</p>	<p>・親子が楽しく参加できる親子教室が実施できたか。 ・相談者のニーズに応じた就学相談、教育相談、学校見学、体験学習が実施できたか。 ・肢体不自由教育の充実や理解啓発につながる研修会や学校公開が実施できたか。</p>	<p>3.6</p>	<p>46 25 0 0</p>	<p>A</p>	<p>【総括】 評価指標については、いずれも対象者のニーズに応じた内容で実施することができた。</p> <p>【良かった点】 ・親子教室では、個の実態に合わせた内容や展開を計画し、子どもさんが主体的に楽しく遊ぶことができた。 ・事前に電話でニーズを把握したことで、相談者に合わせた内容で教育相談を実施することができた。 ・各学部のCDが担当することで学部内と連携して学校見学を実施することができた。 ・校内の先生方の協力も得て、実践への意欲につながる肢体不自由学級担当者の研修会を実施できた。</p> <p>【課題】 ・学校公開の準備、案内の大変さ。 ・夏の研修会における暑さ対策。</p>	<p>・学校公開の準備、案内等の変遷。 ・夏の研修会での暑さ対策。</p>	<p>・松江清心養護学校について知ってもらう理解啓発については、HPやInstagramに変える。本校の教育についてより詳しく知りたい方へは、学校見学で対応する。 ・研修会を午前中に実施するとともに、バットボル氷柱や扇風機などで会場を冷やして対応する。</p>	<p>●HPだけでなく、Instagramも使用することにしたことで、学校生活がよくわかるようになった。毎日の更新は大変かと思うが、いろいろな授業内容や生活での場面をこれからもアップしてほしい。</p> <p>●公開授業や学習発表会、交流事業等における環境づくりや配慮がなされていると感じる。</p>	<p>A</p>
情報管理部	<p>◎児童生徒の主体性を引き出し、可能性を広げるための、ICT機器や支援機器を活用した授業づくりを追求する。</p>	<p>・ICT機器や支援機器の活用に関わる研修・情報発信を実施し、教職員のICT活用指導力の向上を図る。 【(1)-②】</p>	<p>・ICT機器や支援機器の活用等に関わる研修を計画的に実施することができたか。 ・校内の活用実践やICT機器の活用例などの様々な情報提供を通して、教職員のICT活用指導力の向上につながったか。</p>	<p>3.5</p>	<p>39 33 0 0</p>	<p>A</p>	<p>【総括】 ・計画通りに研修会を実施することができた。内容も先生方の興味関心をひける内容だったと思う。 ・標準PCの扱い方について情報提供を行うことができた。</p> <p>【良かった点】 ・計画通りに研修会を実施</p> <p>【課題】 ・ICTに関する希望者を対象とした研修に参加する人を増やす。</p>	<p>・ICT機器の活用例などの情報提供 ・ICT機器に関する研修の内容 ・ICT研修に参加する人の数</p>	<p>・ICT活用指導力向上に向けて、活用事例をデータ化して保存し、チャットなどを通じて情報提供を行う。 ・理解度別、内容別等研修を設定可能かについて分掌内で検討</p>	<p>●他の分掌の評価では、3.5でBですが、こちらはAとなっている。</p> <p>●今後、ICTの進歩により可能性が広がることが予想される。人ができない部分をICTに補ってもらおう方向での活用が進んでいくとよいと感じている。</p> <p>●授業参観や学習発表会等の場面での、児童生徒のICT機器の活用が図られるとともに、授業づくりに生かされていると思う。</p>	<p>A</p>
事務部	<p>◎施設、設備等の破損、不具合がない状態を維持するとともに、破損、不具合が生じた場合は早急に対処する。 ・整備、改修等に必要予算措置を主管課に要求する。</p>	<p>・児童生徒が、安全で安心して学ぶことができる施設、設備等の環境の整備を推進する。 【(3)-①】</p>	<p>・施設、設備等の破損、不具合を認知した日から3日以内に対応方針を決めたか。</p>	<p>3.8</p>	<p>57 15 0 0</p>	<p>A</p>	<p>【総括】 ・定期点検・日常点検を励行し、施設設備の破損、不具合に速やかに対応するよう努めた。</p> <p>【良かった点】 ・発見された破損、不具合について速やかに対応方針の決定を行った。</p> <p>【課題】 ・施設の老朽化による補修箇所増加 ・限られた予算の中での修繕の優先順位</p>	<p>・経費が高額となるものについては、予算の確保に努める。 ・突発的な修繕の発生に備える必要性から保留とせざるを得ない案件の整理・共有 ・不具合への対応にあたり、使用者が複数ある箇所については、最適な方法や優先順位を検討する必要がある。</p>	<p>・経費が高額なものについては、主管課に状況説明等を行う等により、予算の確保に努める。 ・修繕の必要箇所・対応状況（執行・保留）を一覧表にして見える化 ・修繕依頼のルートの整理、共有（経費1万円未満の破損等単純な事例を除く）</p>	<p>●施設が老朽化してきている分、直す箇所も増えてきているかと思う。少ない予算の中でよくやってもらえている。</p>	<p>A</p>